

令和7年度 札幌市立青葉中学校「学ぶ力」育成プログラム


自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：34504

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
◇学習などについてのアンケートより ・自己有用感「人の役に立ててうれしいと感じたことがある」95.5% ・自己有用感「人の役に立つ人間になりたい」95.5% ・他者受容「人のよいところを見付けようとしている」93.2% ・難しいことにも挑戦する意欲「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」87.6%	◇学習などについてのアンケートより ・自ら学ぶ方法と人と学び合う方法「自分の意見を進んで発言しようとしている」62.1% ・生活を自らコントロール「自分で計画を立てて勉強している」55.9% ・自己有用感「自分が必要とされていると感じる」70.6%
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
◇札幌市学校教育の基盤である人間尊重の教育の推進に当たり、子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校づくりが必要とされている。「自己有用感」や「他者受容」については肯定的な回答が多い。子ども同士による行事等での取組や授業等での意見交流の場などを設定していることが、他者への承認や他者からの承認を高めていると考えられる。引き続き、自分が大切にされていると実感できる場を設定していく。	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

「自らすすんで学び、他者と協働する過程で、自分の考えを表現できる子ども」(新札幌わかば小学校と共通目標)

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<ul style="list-style-type: none"> ○自己肯定感の向上と基礎基本の定着を目指した「分かる・できる・楽しい授業づくり」を実践する。 ○小中一貫した取組を行い、探究の過程の指導を通じた、「学び方」の指導を行う。 ○タブレット端末を活用し、日常授業での個別最適な学びへの対応を図るとともに、情報活用能力の育成を図る取組を行う。 ○授業における「振り返り」を適切に行うための、自己評価の観点や方法などについても指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○よりよい学校づくりを目指して <ul style="list-style-type: none"> ・生徒会を中心とした組織的な活動 (生徒総会の実施、学校祭の企画や運営など) ○よりよい学年づくりを目指して <ul style="list-style-type: none"> ・各係を中心とした組織的な活動 (旅行的行事の企画や運営、日常の活動など) ○よりよい学級づくりを目指して <ul style="list-style-type: none"> ・学級代表を中心とした組織的な活動 (学級会の実施、日常の活動など)

〈本プログラムの実行に向けて〉

